

琉球大学におけるRPA導入に向けた取り組みについて

※ RPA : Robotics Process Automation (ロボットによる業務の自動化)

経緯

- 大学業務の高度化・複雑化により業務量が増大する中、単純業務を効率化し、企画立案等のより高度な業務にシフトする必要。
- 2019年度学長特別政策経費として「RPA等を活用した業務改善プロジェクト」を実施。

2019年									2020年		
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
・導入事例等の情報収集 ・ベンダーを招いた勉強会			・使用ツールの検討 (職員モニター)			・実証実験に使うツールの選定 ・実証実験の対象業務の選定			・UiPathを用いたRPAの実証実験 ・職員に対するRPA研修		

実証実験の結果

- 立候補のあった部署からヒアリングを行い、実証実験として3業務を選定（支援業者：(株)オプテージ、(株)国建システム）

対象部署	医学部医療支援課	学生部教育支援課	総務部人事企画課
自動化した業務	支払承認書の要件確認 →支払承認書の印刷	学生証の再発行 →再発行回数データの更新	採用申請書の内容を人事給 与システムに転記
本格導入に向けた課題	医療系業務への導入拡大	紙ベースからの転換	システムとの相性
定量的効果（※）	年84時間削減の可能性	年30時間削減の可能性	年150時間削減の可能性
定性的効果	「業務の標準化」「正確性の向上」「業務内容の高度化」等が見込まれる		

（※）定量的効果は、今後本格導入した場合に見込まれる担当者の作業削減時間であり、現時点で削減が確約されたものではない。

- このほか、実証実験の前に、モニター職員により旧システムのメールを自動転送するロボを作成。
⇒ 約37万件のメール転送を実行（約1,700時間の業務削減効果）

実証実験によって見えてきた今後の課題

- 職員トレーニングとサポート体制
- 本格導入に向けた推進体制の整備
- RPA対象業務の選定方針
- ロボットの開発、稼働環境の整備
- ロボットに対する内部統制の整備
- 業務の電子化の促進 等

